

赤城山水瀑

日付:2021.02.14

メンバー5人:吉田(秀)、大前、須田、佐藤、嘉村(記録)

歩行開始07:30ー氷瀑08:30 12:00ー登山終了13:00

赤城長七郎山の当面に落ちる未踏の氷瀑。以前から会で情報があったらしく今回訪れてみた。

この日の嘉村は登山開始まで登攀用具一式を忘れる大失態。嫌な予感。

利平茶屋の途中ニノ鳥居から氷瀑のある谷を目指す。

途中で見えた目指す滝は二本が並ぶように氷が垂れる。

アプローチは藪が薄く歩きやすいが滝直前は急登と雪の着いたガレ場の下りで緊張を強いられる。



この滝は、下部は傾斜の緩い氷瀑で上部は二本に分かれる。途中は大きなテラス状。

まずは下部の滝を大前氏リードでロープセット。メンバーは荷物を背負って中間部まで。

嘉村は、ハーネスはないが細引きとテープとビナがあるので即席ハーネス手作りしてラストに行く。途中で「ラク！」の声。上を見れば氷の塊が向かってくる。とっさに避けるも肩から首にかけて接触。滝の落ち口から高さはさほどなかったのになんとか無傷で大丈夫だった。

中間部は広く日差しもあり快適だが足下には落氷や落石、人間大の氷柱が転がるなどあまり落ち着かない。この日は暖かく氷の状態は良くない。

大前氏が高巻きして左の滝にロープをセット。右は日が当たり登るにはリスクがあるようだ。



1人一本ずつ登るが落石や落氷も出てきているのでケガをしないうちに回収下山。

記録もなく桐生山岳会初登ということにした。氷の状態が良い時にまた来てみたい。

即席ハーネスはお尻にはキツかった。